

年間第 12 主日 (マタイ 10:26-33)

イエスを信じて生きることを恐れるな



暑くなってきました。今でも暑いのですから、本当に夏になってからがとても心配です。子どもたちの黙想会や、聖母祭、暑い中での行事は特に気をつけたいですね。

父の日を迎えました。父の日は中田神父にとっては後悔を思い出す日です。父親の輝明に、父の日にそれらしいことを一度もしないまま、旅立たせてしまったからです。一度だけ、マッサージチェアを買ってあげましたが、「要らん」と言われ、使ってくれませんでした。結局、休みで帰省するたびに私がマッサージチェアに座り、機械を動かしていました。聞けば、私が使う以外は、誰も使っていなかったそうです。

それでも、父が亡くなる少し前に、病院から特別に外出許可が出て、自宅に帰る時間が取れました。その時一度だけ、マッサージチェアに座らせました。昔の木造住宅なので椅子を使う部屋はありませんでしたので、椅子の代わりに座らせたわけです。ただ、外出許可には時間制限が設けられていましたので、「時間になったからそろそろ病院に戻ろうか」と声をかけました。

するとそれまで気持ちよくマッサージチェアに座っていた父が、せっかく家に帰ったのに病院に送り返されると受け取ったのか、「おれを騙したな」と睨みつけたのはいつまでも心の傷になりました。肺がん末期で、痛みを緩和するためモルヒネを打っていた、さまざま理由があるにせよ、「おれを騙したな」という言葉は今も耳に残っています。ちょっと、父の日に楽しくない話になってしまいました。

年間第 12 主日の福音朗読で繰り返されていることばは、すでにお気づきでしょうが「恐れるな」ということばです。まず、「人々を恐れてはならない」(10・26)と言います。「人々」は「イエスを信じない人々」「イエスを信じる人々を受け入れない人々」でしょう。もし人々を恐れるとすれば、それは自分たちがイエスから受け継いだことばが、伝わらないのではないか、受け入れてもらえないのではないかという恐れです。

「宗教の話はしないで」と、会話をピシッと遮られたことがあります。確かに、イエスがなさった働きを生活の中で例えとして話せば、それは「宗教の話」ということになるでしょう。けれども、話題にいちばん当てはまる話がイエスの働く姿だとしたら、私は真っ先にそれを選びます。

ことわざ、格言、言い伝え。それらが最も会話に当てはまるなら、それらを持ち出すでしょう。けれどももし、イエスのなさった働きを引き合いに出すのがその場に最も適していれば、明るみでも言いますし、屋根の上からでも堂々と言いたいです。場面に、最も当てはまるのであれば、どんな人々の前でも恐れずに言い広めたいです。

次に、「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れる

な」(10・28)と言います。続けて「むしろ、体も魂も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(同)と、誰を恐れるべきかを明らかにします。「体を殺す」これは、現実問題としては、「魂も殺される」ことを意味しているのではないのでしょうか。しかしイエスはこの二つを区別しています。

中田神父はこう考えました。体は、人間が造ります。最初の受精卵が細胞分裂を繰り返して、実に成人男性で 37 兆個にもなるそうです。この細胞分裂によって造られた体は、人々によって殺される可能性があります。戦争によっても、殺人によってもそれはありうることでしょう。しかし、魂は人間が造ったものではありません。魂は神がお造りになり、人間の体と合わせてくださいます。つまり、「体も魂も地獄で滅ぼすことのできる方」は、神おひとりなのです。

そして最後に、「だから、恐れるな。」(10・31)と結びます。もちろん、恐れる必要のないもののリストを教えているわけではありません。ただ一人、恐れるべき方、私たちの信じる神を恐れる。畏れ敬う。そのことをここまでの対話によって語ってくださっています。ですから、毎日の生活は、「宗教」と銘打って話さなくても、ただひとり恐れるべき方を正しく恐れながら生活する。その積み重ねなのです。

「人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。」(10・33)そこに「イエス・キリスト」ということばが含まれていなくても、ただひとり恐れるべき方を正しく恐れて生きているなら、イエスがご自分の仲間として守ってくださいます。人々が守れないものを、ただ一人イエスは守ることのできるお方です。

私の生活は、「イエス」ということばを直接口にしなくても信仰生活と重なっての日々の生活です。恐れる必要のないものを過度に恐れず、恐れるべきお方を正しく恐れて生きていきましょう。その堂々とした生き方に、人々は理由を聞いてくるに違いありません。

年間第 13 主日(マタイ 10:37-42)